

2012年3月期 第2四半期決算説明会



2011年11月18日



株式会社アドバネクス

本資料は2011年9月30日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、予告なしに変更されることがあります。

主な内容

1. 2012年3月期第2四半期決算の概要
2. 2012年3月期通期見通し
3. 今後の事業展開

1. 2012年3月期第2四半期決算の概要

1-1 第2四半期連結業績概要

(単位: 百万円、%)

	2011年3月期 2Q	2012年3月期 2Q	対前期比増減		期初予想額 (5月13日公表)	対期初計画 増減(額)
			額	率		
売上高	16,159	13,096	△3,062	△19.0%	12,500	596
営業利益	393	409	16	4.1%	150	259
利益率	2.4%	3.1%	—	—	1.2%	1.9%
経常利益	211	190	△20	△9.8%	50	140
利益率	1.3%	1.5%	—	—	0.4%	1.1%
四半期純利益	93	17	△75	△80.9%	△150	167
利益率	0.6%	0.1%	—	—	△1.2%	1.3%

「なるほど！」を提供する

1-2 第2四半期連結業績のポイント

◆対前年同期比で減収・減益

売上高は、主にモーター子会社の非連結化と震災の影響により、対前年同期比19.0%減少。営業利益は、粗利率の改善や販管費の減少により対前年同期比4.1%増加したが、為替差損や特損の発生により、最終利益は17百万円となり、前年同期比80.9%減少。期初予想に対しては、売上・利益とも上回る結果。

◆プラスチック事業は収益改善

第2四半期は回復したものの、震災の影響により、精密ばね事業とプラスチック事業でOA機器向けや自動車向けの売上高が減少。プラスチック事業は国内外で収益性が改善。精密ばね事業は、国内は好調だったが、海外で利益が減少。

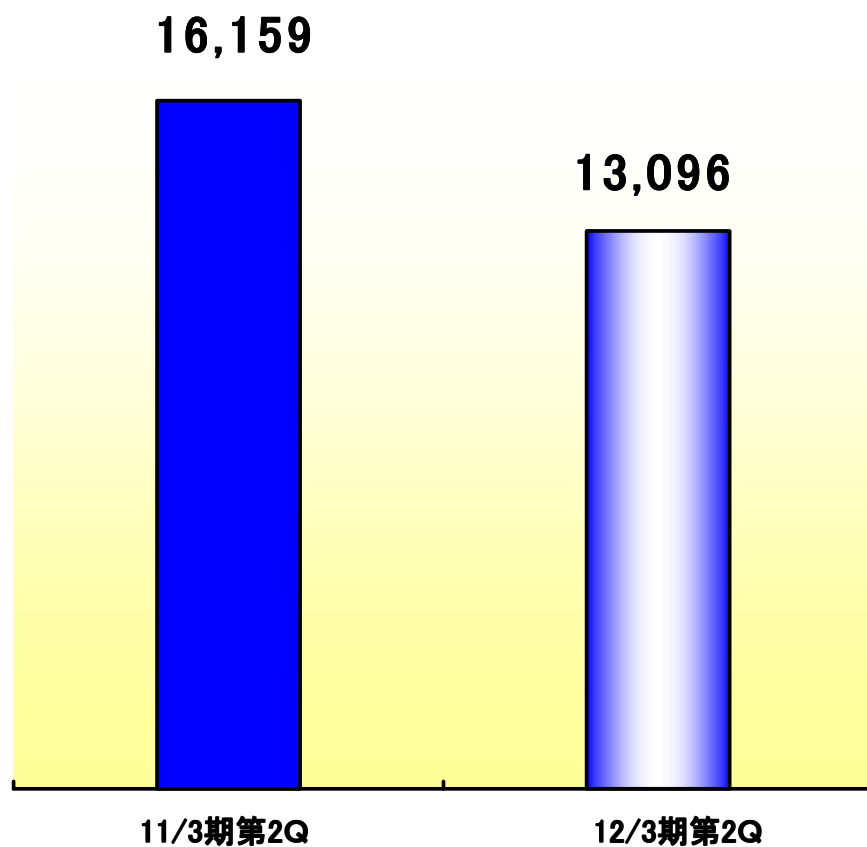
◆ヒンジ事業は携帯電話向け事業の縮小により、損失額減少

事業縮小の遅れのため、損失が予想より増加したものの、製品値上げや人件費等の固定費削減により、第2四半期は赤字幅が縮小。

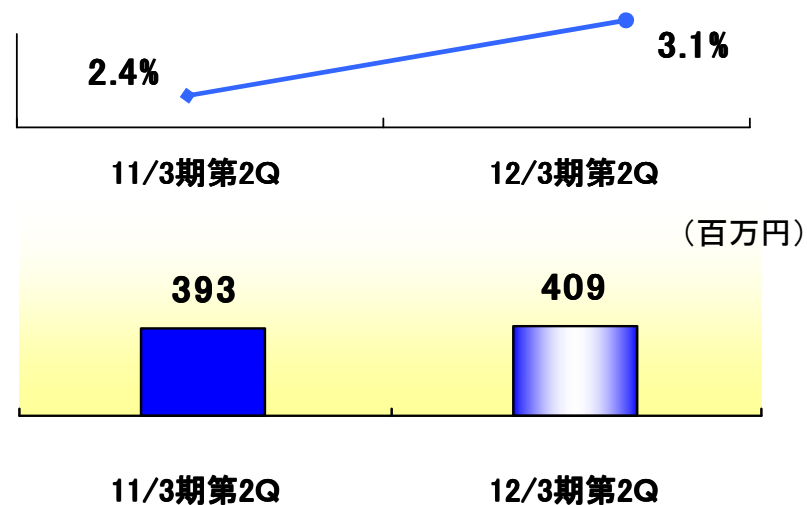
1-3 第2四半期業績推移(連結)

売上高

(百万円)

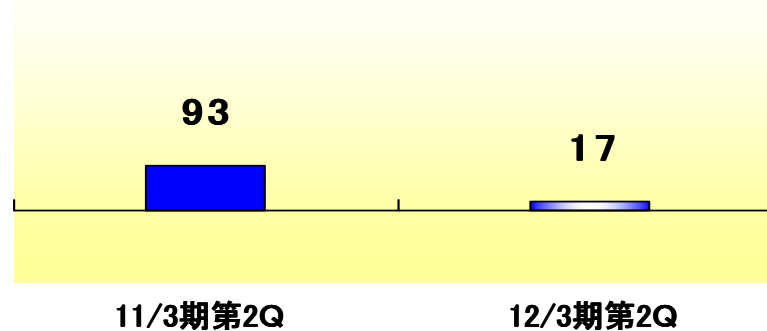


営業利益・利益率



四半期純利益

(百万円)

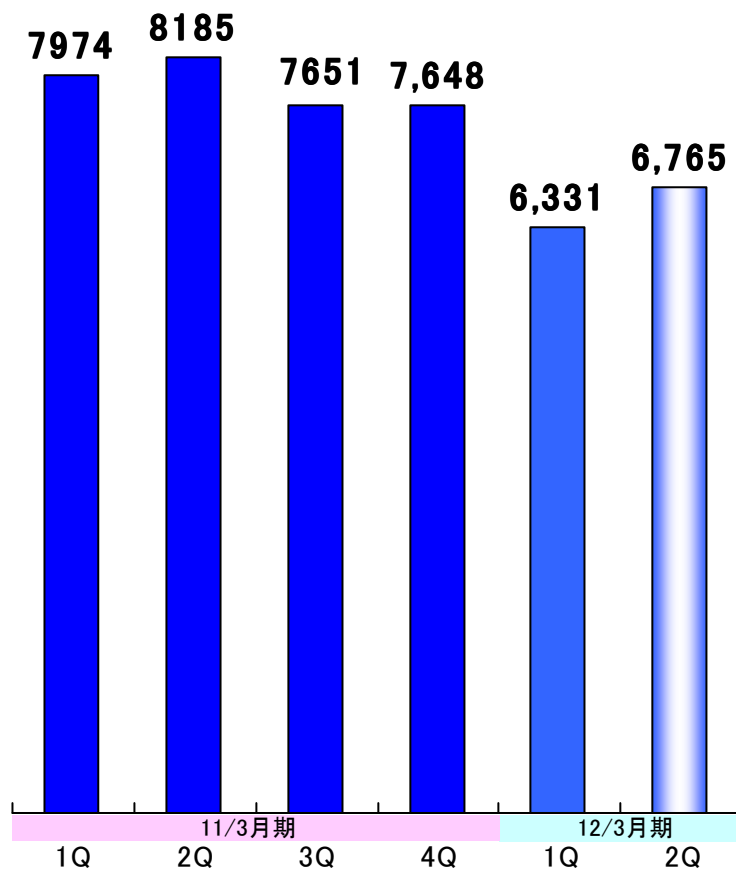


「なるほど！」を提供する

1-4 四半期別業績推移(連結)

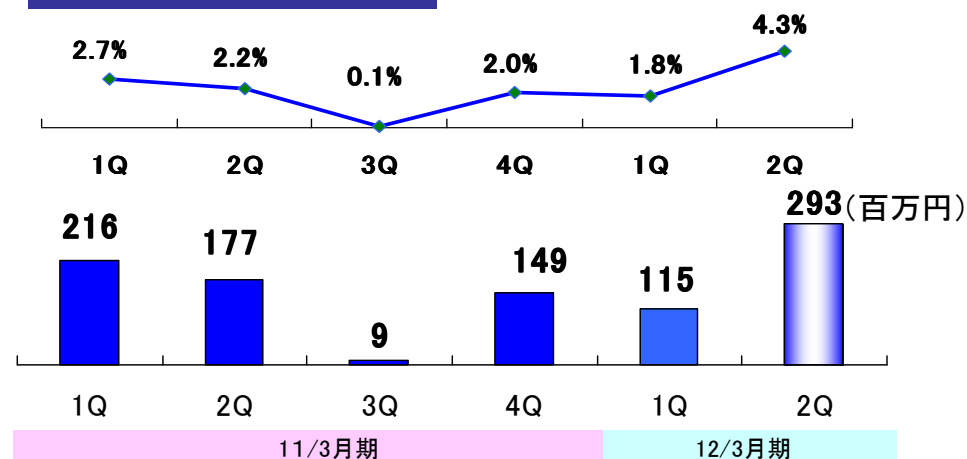
売上高

(百万円)



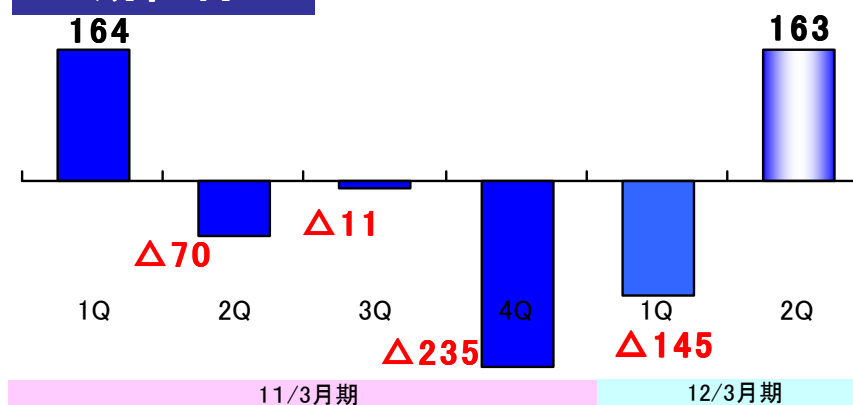
営業利益・利益率

4



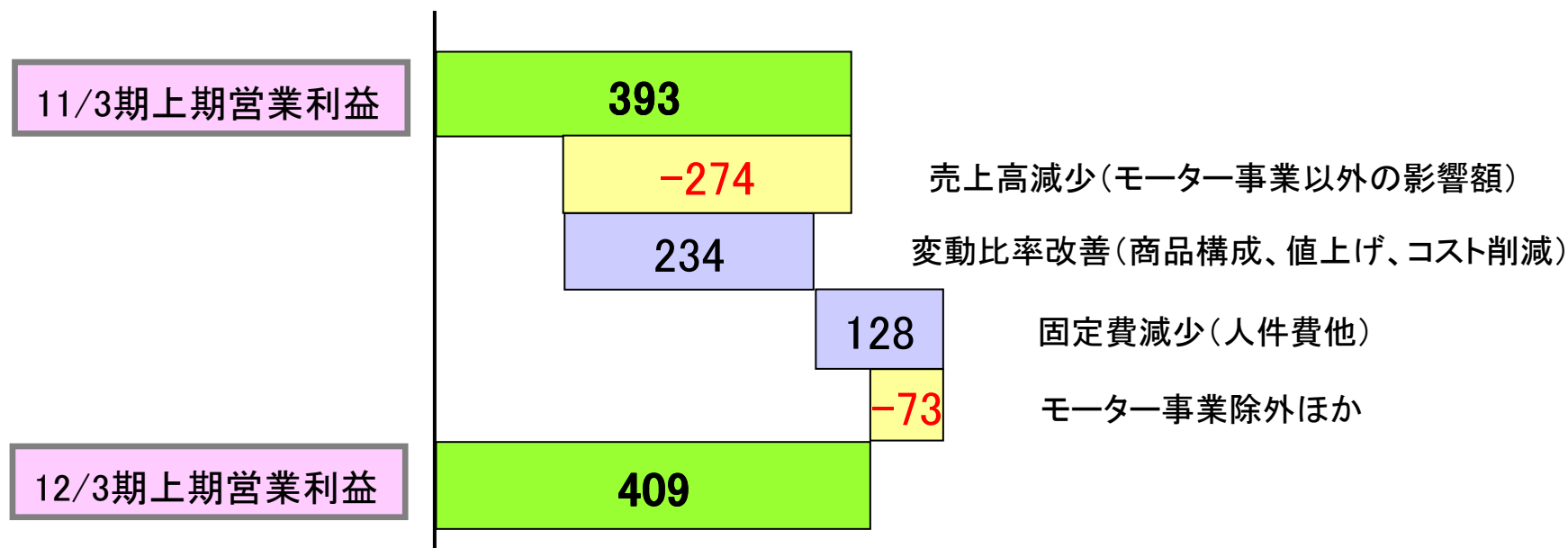
当期純利益

(百万円)



1-5 営業利益差異分析(連結)

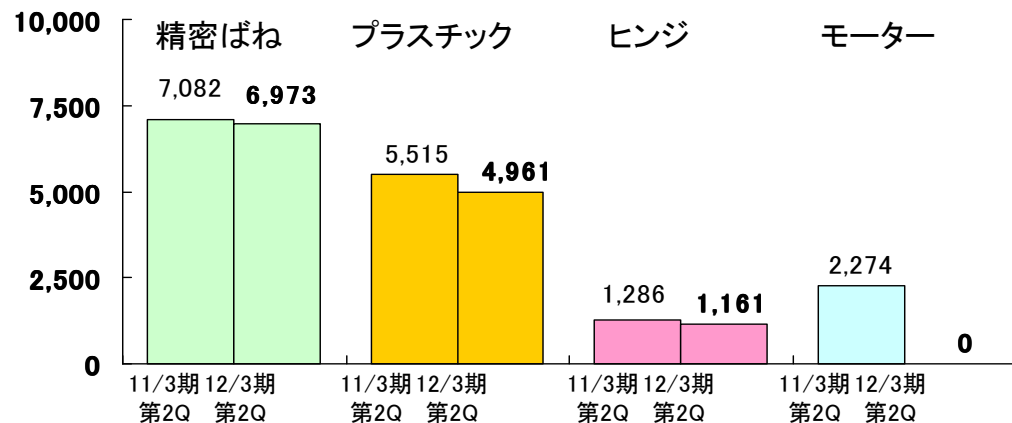
(単位: 百万円)



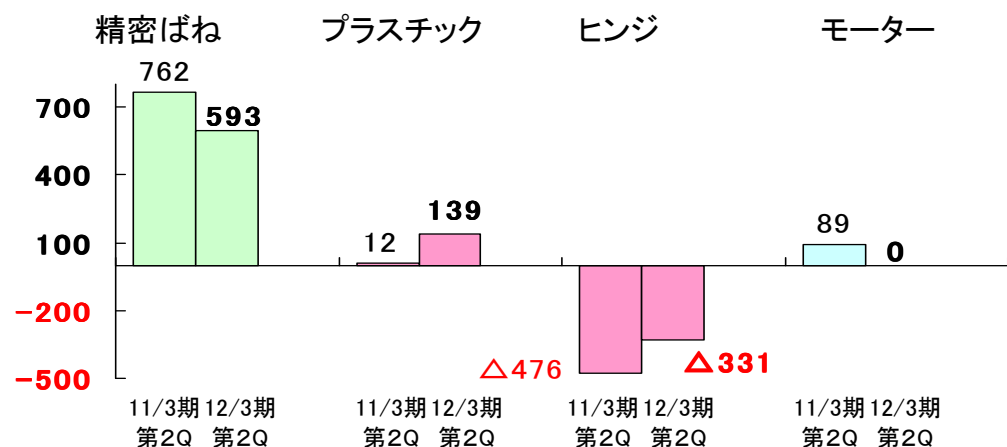
モーター子会社の持分法適用に伴い、前年同期対比で売上高2,274百万円、営業利益89百万円が減少。モーター事業を除く売上高は、震災の影響等により788百万円減少。売上高減少に伴う利益減少を、国内ばね事業とプラスチック事業の原価改善およびヒンジ事業の縮小による固定費削減でカバー

1-6 事業別売上高・営業利益

売上高



セグメント利益



<前第2四半期からの変動要因>

精密ばね

- ・震災の影響で、OA機器・自動車向けの売上が減少。
 - ・国内は、収益性の高い商品の売上増加により、収益が改善するも、海外での売上減少・人件費増加が響き、全体としては収益減少。
- <売上: △1.5%、セグメント利益: 168百万円減少>

プラスチック

- ・震災の影響で、自動車向けの売上が減少
 - ・国内における収益性の高い製品の受注、中国での製品価格値上げや原価低減の結果、収益は改善。
- <売上: △10.1%、セグメント利益: 127百万円増加>

ヒンジ

- ・携帯電話向け事業の縮小に伴い、売上高が減少。
 - ・製品値上げや人件費等の固定費削減により、2Qは損失額縮小。
- <売上: △9.7%、セグメント損失: 145百万円減少>

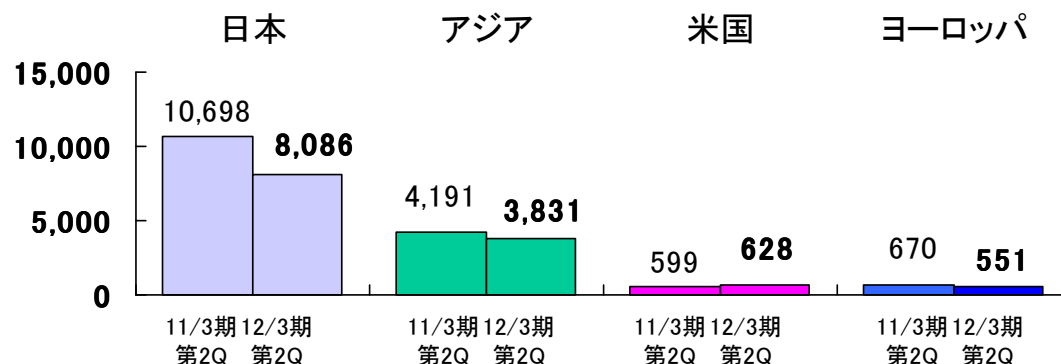
モーター (今期より除外)

2011年4月、モーター事業を担当するフジマイクロが連結子会社から持分法適用会社に移行したため、モーターセグメントは今期より除外。

1-7 所在地別売上高・営業利益

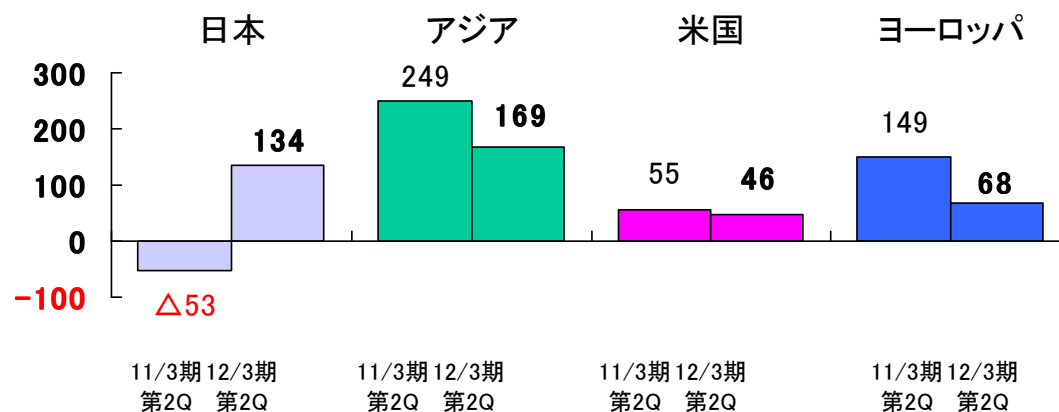
売上高

(単位: 百万円)



セグメント利益

(単位: 百万円)



<前第2Qからの変動要因>

日本

モーター子会社の非連結化による売上減少に加え、震災の影響等でプラスチック事業の売上が減少。ヒンジ事業も縮小。

プラスチック事業は収益性の高い商品構成比が増加し、収益改善に貢献。ヒンジ事業も2Qは、損失額が縮小。

売上: $\Delta 24.4\%$ 、セグメント損益: 188百万円改善

海外

欧州はタングレスコイルスレッドの売上減少により、減収・減益。アジアはプラスチック事業が収益改善するも、震災の影響等により精密ばね事業がシンガポール・中国で減収・減益。

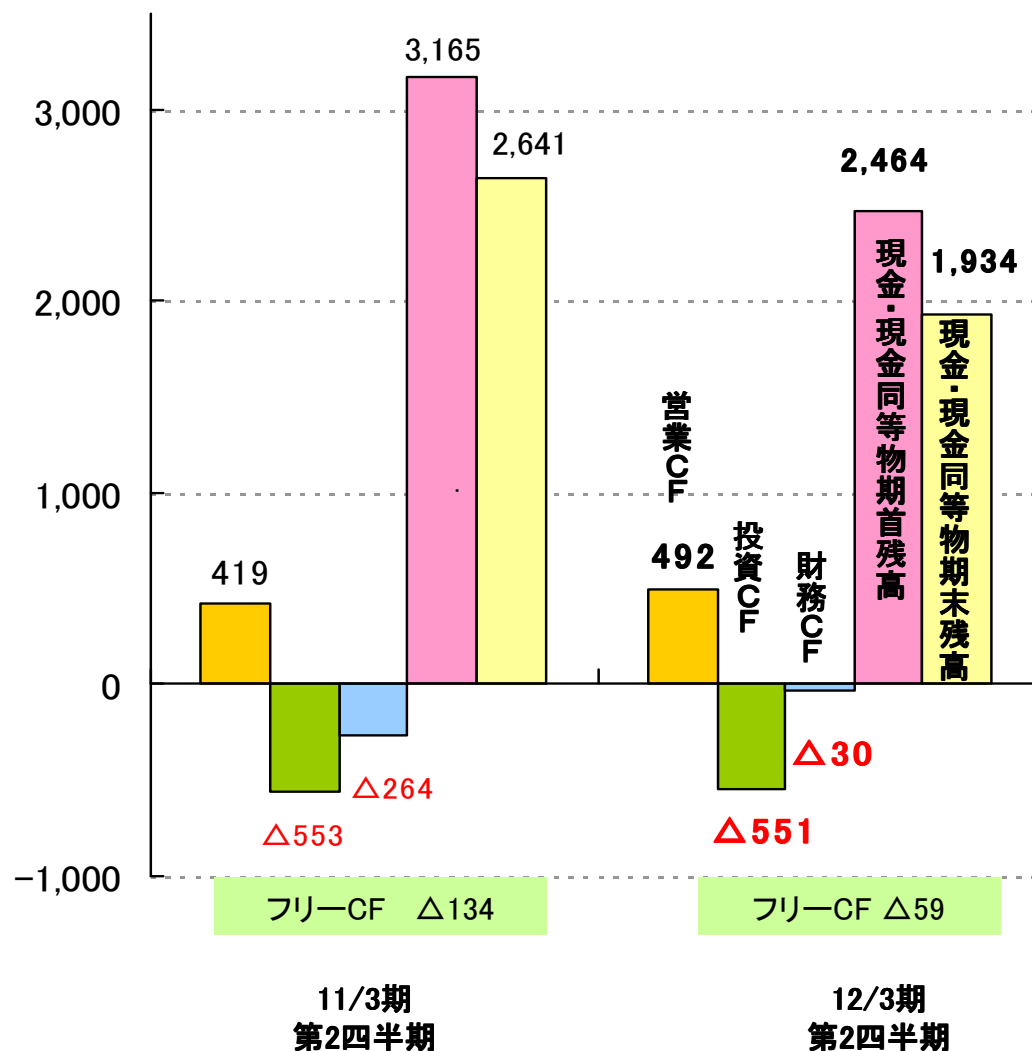
売上: $\Delta 8.3\%$ 、セグメント利益: 170百万円減少

「なるほど！」を提供する

1-8 連結市場別売上高

(百万円)	11年3月期		12年3月期		増減	
	上期	構成比	上期	構成比	額	増減率
OA機器	4,758	29.4%	3,857	29.5%	△900	△18.9%
自動車機器	3,242	20.1%	3,005	22.9%	△236	△7.3%
PC・周辺機器	728	4.5%	1,108	8.5%	381	52.3%
携帯情報端末	1,054	6.5%	813	6.2%	△241	△22.9%
AV・家電	1,178	7.3%	764	5.8%	△414	△35.2%
精密機器	792	4.9%	887	6.8%	95	11.9%
医療機器	528	3.3%	409	3.1%	△119	△22.5%
住設機器	1,954	12.1%	901	6.9%	△1,054	△53.9%
その他	1,925	11.9%	1,352	10.3%	△573	△29.8%
合計	16,159	100.0%	13,096	100.0%	△3,063	△19.0%

1-9 連結キャッシュ・フロー



<12/3期第2四半期の状況>

営業活動によるCF

減価償却費による資金留保等により、資金が492百万円増加

投資活動によるCF

国内やアジアの工場における機械設備等の投資により、資金が551百万円減少

財務活動によるCF

リース債務の返済により、資金が30百万円減少。モーター子会社の借入金減少があったが、プラスチック事業等で借入金増加。

2. 2012年3月期通期見通し

2-1 2012年3月期通期業績予想(連結)

(百万円)	2011年3月期	2012年3月期 通期予想	対前年比 増減(額)	期初予想 (5月13日公表)	対期初計画 増減(額)
売上高	31,459	25,000	△6,459	26,000	△1,000
営業利益	552	700	148	850	△150
営業利益率	1.8%	2.8%	1.0%	3.3%	△ 0.5%
経常利益	326	360	34	590	△230
当期純利益	△152	50	202	330	△280

2-2 通期業績予想について

◆売上高・利益ともに通期予想は減額

上期では売上・利益とも期初予想を上回ったが、下期は精密ばね事業とプラスチック事業において、売上高の減少に伴い利益が減少する見込み。ヒンジ事業における事業縮小の遅れに伴う損失増加のため、通期では期初予想を下方修正。対前期実績比較では、減収・増益の見込み。

◆精密ばね事業が3Q以降は減速

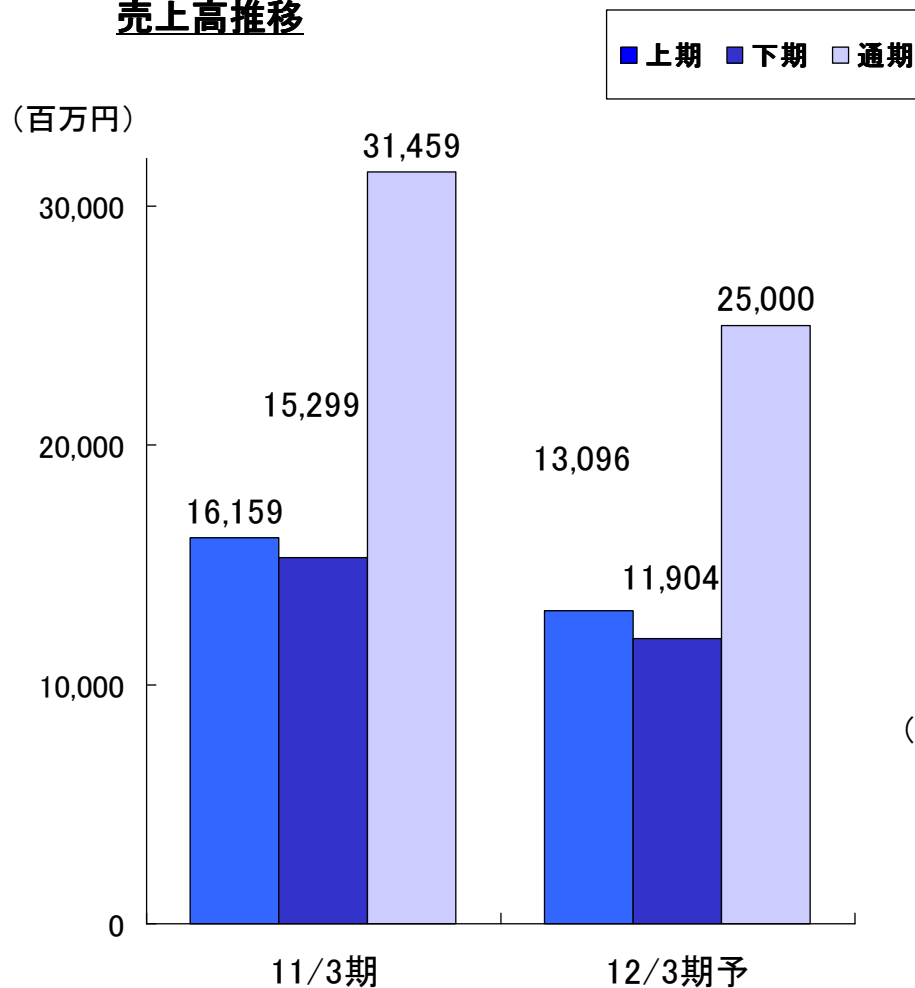
顧客企業の生産調整等に伴い、タブレット端末向けやOA機器向けの受注が、3Q以降減少する見込み。また、タイの洪水被害に関して、現地子会社の売上減少や、顧客企業の部品不足による生産調整の影響を国内外で想定。売上高5億円、営業利益1.5億円の影響額を織り込む。

◆株式交換により特別損失が発生

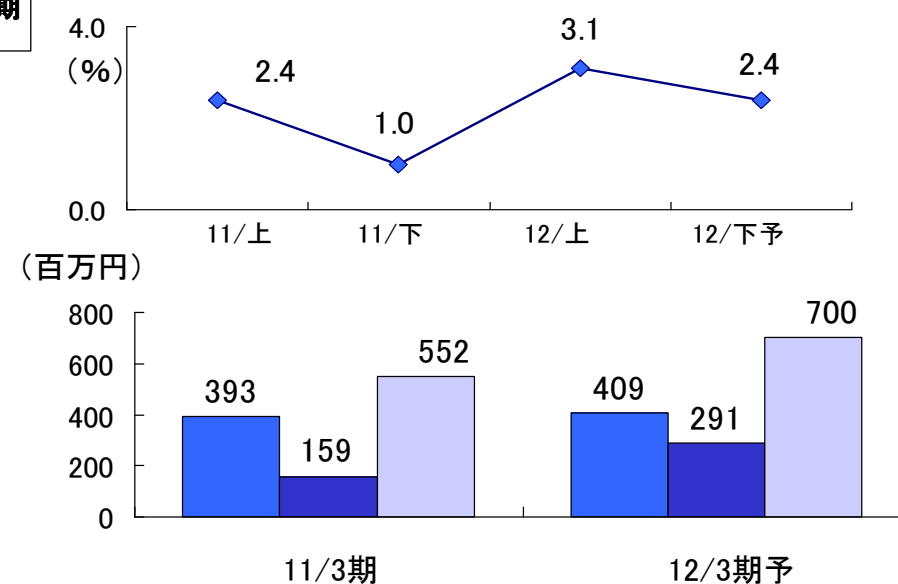
株式交換によるストロベリーコーポレーションの完全子会社化に伴い、3Qに112百万円の特別損失が発生。年金制度の移行に伴い、特別利益も発生する見込みであるため、影響は軽減。

2-3 業績推移(連結)

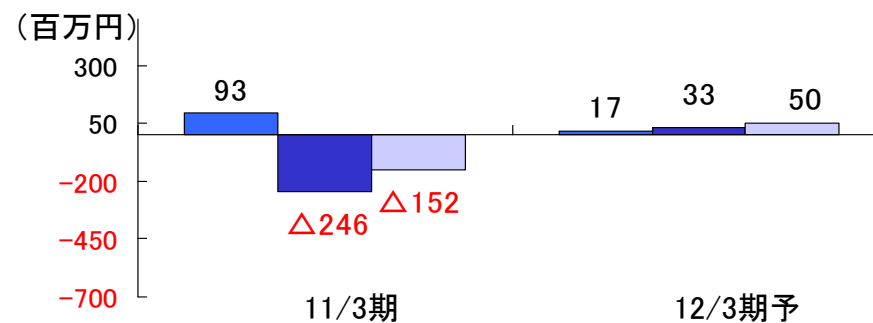
売上高推移



営業利益・営業利益率(%)推移

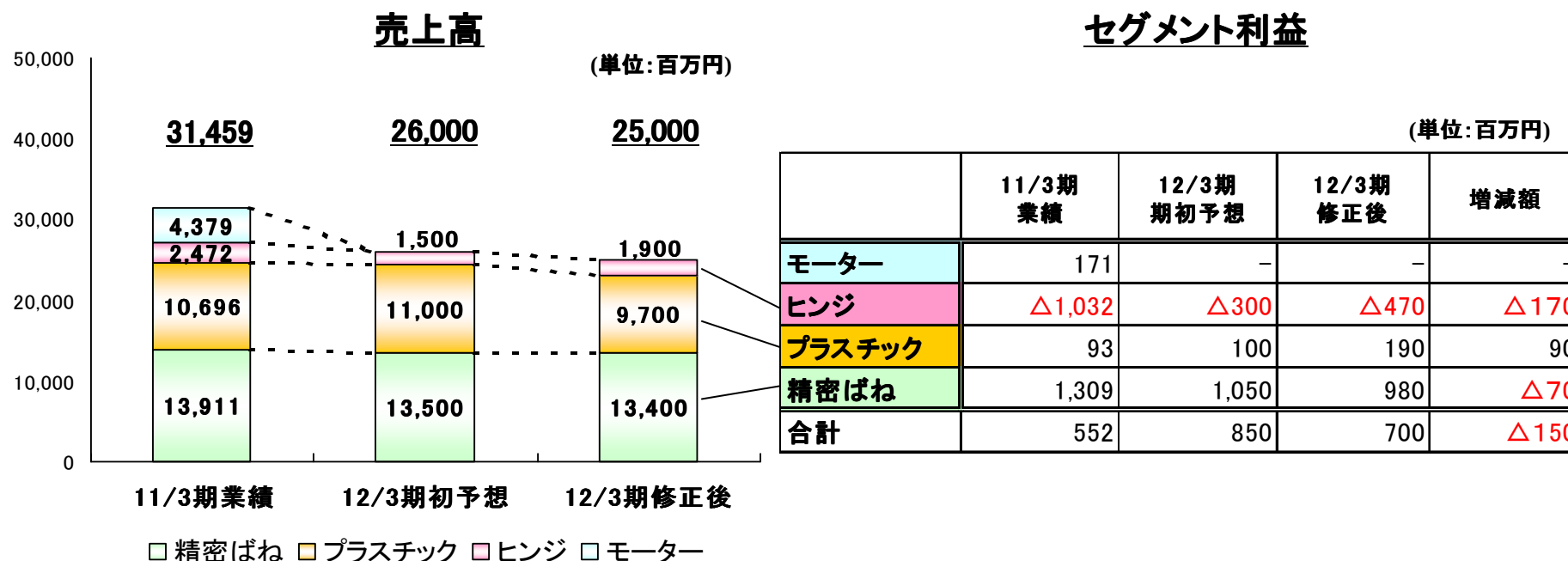


当期純利益推移



「なるほど！」を提供する

2-4 セグメント予想の修正



<修正の要因>

精密ばね事業は、上期は予想を上回ったものの、下期はPC関連やOA機器向けの受注減により、売上・利益とも減少。他にタイの洪水被害で、売上高5億円、営業利益1.5億円の影響額を見込む。プラスチック事業は、OA機器向けや自動車向け等で売上は減少するものの、国内外で収益性が改善。ヒンジ事業は、事業縮小の遅れに伴い売上高が増加、利益面では損失が拡大。

3. 今後の事業展開

3-1 タイ工場の洪水被害について(1)

工場所在地： アユタヤ県ハイテク工業団地(タイ中部)

- 10月6日 線ばね製造装置、フォーミング加工装置を近隣に移動開始
- 10月11日 従業員避難、工場操業停止
- 10月13日 ハイテク工業団地が浸水、工場1Fにあったプレス装置は冠水
- 10月18日 タイ東部のチョンブリ県アマタナコン工業団地内の工場建物にプレス装置以外の機械を再移動。
- 10月24日 プレス用金型をアユタヤ工場から搬出、一部は柏崎工場他に移動。
- 11月1日 アマタナコンをタイ第2工場として開設し、生産開始。

業績に及ぼす影響

ハイテク工業団地は11月8日から排水を開始、2～3週間で水位低下の見込み。
日系顧客企業が多数浸水、生産再開時期は未定。
サプライチェーンの寸断により、タイの国内外に影響が拡大。
現時点で、タイおよびアジア子会社等の減産により、精密ばね事業とプラスチック事業において、売上△5億円、営業利益△1.5億円の影響額を予想。

3-1 タイ工場の洪水被害について(2)

浸水したアユタヤ工場（撮影：10月16日）



2段に重ねたコンテナに避難させていた金型を搬出（撮影：10月25日）



「なるほど！」を提供する

3-2 タイ第2工場の設立について

タイ第2工場の概要

- 所在地: チョンブリ県アマタナコン工業団地
首都バンコクから57km東、日系自動車部品メーカーが多数入居
- 建物面積: 2,875m² (第1工場は3,300m²)
- 設立経緯: タイ東部のばね製品需要に対応するため工場開設を計画。
来期以降の設立予定を早め、11月1日に開設。
- 生產品目: 当面は線ばねとフォーミング加工製品。プレス機は現在手配中。
- 従業員数: 現状は第1工場の従業員170名が移動して勤務



撮影:10月18日

3-3 ストロベリーコーポレーションの完全子会社化について

11月1日付けで株式交換を実施

- ・ストロベリー株1株に対しアドバネクス株92株を交付
交付株式数： 1,843,956株
新株発行数： 1,378,071株（希薄化率3.4%）
- ・発生したのれん112百万円を全額減損処理、第3Qに特別損失を計上
- ・ストロベリーコーポレーションは10月27日付けでJASDAQ市場上場廃止

完全子会社化の目的と今後の事業方針

- ・携帯電話向けヒンジ事業の大規模縮小を4月に発表。事業縮小の遅れから上期は損失発生が予想を上回り、債務超過は9月末時点で770百万に拡大。下期も140百万円の損失が見込まれる状況。
- ・完全子会社化により、アドバネクスとの重複機能統合によるコスト削減の徹底、資金支援体制の構築、グループ内への生産委託とファブレス化転換を加速。
- ・携帯電話向け事業は来年3月までに不採算製品の生産終了。PC向け事業は当面継続。将来的には自動車・住設・医療向け事業を開拓・強化。

3-4 今後の事業課題(まとめ)

年内に中期計画を策定。財務体質の改善と構造改革を推進。

精密ばね事業

- ・海外ネットワーク拡大
海外におけるアドバネクスブランド強化
工場新設(タイ第2工場の次はインド)
- ・国内は高付加価値商品開発を強化

プラスチック事業

- ・海外での売上増加と収益性改善
日系メーカーの海外移転の流れに対応
特に中国における営業強化と日本からの営業支援
- ・強みを持つ高性能ギヤユニット開発を強化、利益率上昇につなげる

ヒンジ事業

- ・ストロベリーの構造改革の徹底
債務肩代わりと赤字事業分野からの撤退



ADVANCE

(お問い合わせ先)

株式会社アドバネクス
広報IR部

TEL:03 - 3822 - 5865 FAX:03 - 3822 - 5873

URL: <http://www.advanex.co.jp>

